

## 地域連携テーマにおける活動実績と今後の活動方針（案）

### 1. テーマ内容の設定

市民会議では、地域連携テーマ検討の具体化を進める必要がある。平成 26 年度には方向性を明らかにし、以下の 3 テーマが設定された。

- ①ごみ・流木問題
- ②土砂問題
- ③木づかい

### 2. これまでの実績

平成 26 年度は、勉強会において「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3 つの課題を抽出し、主務担当者を決定した。また、部会の枠を越えた河川整備計画の内容や現地視察等の勉強会を通して、基礎的な知識を共有するとともに、山・川・海の相互理解を図った。

平成 27 年度は、5 月に実施された会議を受け、WG 等で以下の活動を行った。

#### ①ごみ・流木問題

- 山・海の合同 WG を開催し、トンボロ干潟への現地視察を行い、ごみの漂着状況を確認することで実態を共有することができた。
- HP 上で情報管理が可能なごみマップを活用して、今後の調査結果の整理に活用することで部会員の合意を得た。

#### ②土砂問題

- 小渋ダムの土砂バイパスの視察と総合土砂管理検討委員会の情報共有を行った。
- 矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取り組み方法等を検討した。

#### ③木づかい

- 根羽村では、小学生が源流から河口まで自転車で走破したことが周知された。WG では、流域の小学生を対象に流域を自転車で下るイベントを実施してみてはどうかとの意見が出された。また、山村再生担い手づくり事例集では、流域に様々な人々との繋がりが生まれたため、それらを巡るツアーとするのも良い経験になる。このイベントの計画については、今後の WG で部会メンバーが試験的に行い、本格的な導入を検討する予定である。
- 流域ものさしの製作においては、WG の中より木材の提供の申し出があったほか、用いる樹種についての意見交換が行われた。また、製作に関しては、山村再生担い手づくり事例集で取材を行ったファーストハンド等に依頼するなど、活動で築かれた関係を活かす提案が出された。
- 安城市や豊田市の木づかい推進においては、動く木のおもちゃが高く評価され、安城市

ではカーボンオフセットの活用した市内全域への拡大が予定されている。また、豊田市では殺風景な空間にプレイスメイキングを行うことで集客力が大幅にアップしたことが WG で周知された。

○どこでもシリーズに代表される「どこでも根羽スギ物置」においては、一般市民に好評であったことが周知され、販売後のアフターケアの必要性が話し合われた。

○中房温泉に建設された根羽スギによる家族風呂は、山部会有志による見学を行い流域材の活用事例を学んだ。

### 3.今後の活動方針（案）

各部会で今年度までに協議・検討された内容より、各テーマの活動方針(案)を以下のように設定する。

- ①ごみ・流木問題 : 海部会 WG を中心に実施するごみ・流木に関する検討のうち、国土交通省が開発した「ごみマップ」をベースにした成果を公開
- ②土砂問題 : 海部会 WG および山部会 WG が連携した「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしゅみを形成
- ③木づかい : 山部会 WG で検討されている「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ考え方の展開  
流域に住む小学生を対象に流域を自転車で行くイベントの具体化  
移動時の体験種目として山村再生担い手づくり事例集の実用化